

平成 29 年度 事業報告

法人全体

平成 29 年度パーマリィ・イン中道におきましては、施設全体での稼働率は 80%。

特養・デイサービスでの稼働率低迷による影響を大きく受け、7%減の結果となりました。

パーマリィ・イン千鳥山荘におきましては、施設全体での稼働率は 88%。

29 年 4 月に訪問介護事業所を閉鎖しましたが、ショートステイの高稼働率により前年度と同程度の稼働率となりました。

パーマリィ・イン西神春日台におきましては、施設全体での稼働率は 88%。

入居系サービスにおいて年間を通し高稼働率を維持できたため、前年度より 7%増の結果となりました。

パーマリィ・イン中道

特別養護老人ホーム

平成 29 年度は 91%（前年比 3%減）の稼働率となりました。

長期入院された方が複数名重なった影響と、次期入所予定候補者の確保に時間を要した結果、稼働率を落とす結果となりました。

事業計画としましては、施設内会議・研修 79 件実施、施設外研修 83 件参加し、実習生は延 17 名受け入れ、ボランティアの方々は 374 名受け入れております。

短期入所生活介護

平成 29 年度は 94%（前年比 1%増）の稼働率となりました。

長期利用をされていた方の特養への移行に伴い、一時稼働率を下げるが続きましたが、千鳥山荘ショートステイとの連携を行っていき、稼働率確保に努めていきました。

通所介護

平成 29 年度の稼働率は 69%となりました。

平日の平均利用者数が 30 名を切る状態が続いたことにより 12 月より定員数を 40 名から 35 名としています。居宅介護支援事業所等への営業活動を行っていき、年度末には稼働率が上昇傾向が見られており、30 年度は 29 年より稼働率が上昇することが見込まれております。

訪問介護

長期間ご利用者されていた方が複数名ご逝去されたことにより一時、契約利用者数が減少しましたが、徐々に契約件数も増えてきております。

居宅介護支援

平成 29 年 4 月により 1 名のケアマネジャーが地域包括支援センターへの異動となりプラン件数の減少が見られております。9 月以降職員の増員に伴い、プラン数も増加し、半期は安定した稼働率を維持できております。

地域包括支援センター

介護や見守りなど、地域の高齢者に関する総合相談窓口として、また、近隣住民や居宅介護支援事業所から高齢者虐待の疑いの相談対応として、区のあんしんすこやか係と連携しております。

地域における課題について、地域の声や相談受付の分類・データに基づいて分析。そして、民生委員や自治会等の地域支援団体、さらには医療関係者・介護事業所等を交え、地域課題

について意識共有、話し合いを行う「地域ケア会議」を開催しております。

その1つ、会下山地区においては、坂道が多く外出困難な高齢者や、地域との関わりが希薄な高齢者を地域でどう支えていくかということについて、それぞれの立場でできることなど話をすすめております。

地域支え合い活動推進事業

地域支援者の高齢化の影響による、友愛訪問ボランティアグループの解散も重なり、次の世代にも、地域見守りに触れていただこうと考え、地域で開かれている、ふれあい喫茶に児童とその保護者を招き、世代間交流を開催しました。

地域見守りの必要性を若い世代に周知できるよう現在も取り組みを行っております。また、趣味活動、集まりの場所を求める地域からの声に対して、「囲碁・将棋サークル」も新たに開催。今後は、地域主体で自主的に活動が行えるよう、後方支援の立場で活動しております。

介護機能強化モデル事業（LSA）

ルゼフィール中道住宅の住民の方々に対して、訪問活動や電話による安否確認、また生活相談を行いながら、必要時は行政や担当ケアマネジャー、地域包括支援センター等、各関係機関と連携し、安心して暮らせるための支援を行いました。

モデル事業として行っておりました配食サービスは、神戸市配食サービスの終了に伴い、事業終了しております。民間業者の参入も増加し、十分なサービス提供が行えており、今までご利用されておられた方に対しては、それらの事業所を紹介し、スムーズに移行できるよう援助を行っております。

平成 29 年度 事業報告

パーマリィ・イン千鳥山荘

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームでは、前年度と比較し医師や看護職員、医療機関等との連携をスムーズに行なえた結果、入院者の延べ人数が年間 23 人（前年度比 13 人減）、入院延べ日数では、年間 278 日（前年度比 138 日減）となりました。退所者も前年度と比較して減少致しております。

施設行事等に関しましてはボランティア等の受け入れを積極的に行なうと共に地域行事や、会議等にも参加することで、地域との繋がりを強化でき、地域との交流も深めることができました。施設内会議・研修は 188 件実施、施設外研修には 42 件参加しました。また、ボランティアの方々は約 108 名受け入れ、実習生に関しましては 33 名の受け入れとなりました。

短期入所生活介護

短期入所生活介護では、地域との繋がりや個室の特性を活かしながら、リピーターの利用者、緊急的な利用者等多岐に渡る新規利用者の対応と確保を迅速に行なえた結果、年間を通じて安定した稼働状況を維持することができました。

通所介護

通所介護では、主に施設近隣のあんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所との連絡を密に取ることでより柔軟な体験利用者や新規利用者の受け入れに努めました。多種多様なボランティアの受け入れを促進し季節等に応じたレクリエーションや行事を企画することで利用者の満足度向上を図ることができました。

小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護では、利用者の置かれた環境等に応じた適切なサービス内容の見直しや他のサービス利用への移行を行なった結果一時的に登録利用者数が減少致しました。その後は小規模多機能型居宅介護の通い、訪問、泊まりそれぞれのサービスの組み合わせによる独自性を活かせる利用者を獲得することで登録者数を回復させることができました。

訪問介護

訪問介護では、収益の伸び悩みやパーマリィ・イン中道とのサービス区域の重複等もあり事業所を統合し昨年 4 月末でサービスを終了しております。

居宅介護支援

居宅介護支援では、地域で開催される研修や会議等に積極的に参加すると共に近隣のあんしんすこやかセンターとの連携をより深める事で前年度と同様、新規利用者をスムーズに獲得することができました。利用者とそのご家族様などの意向や要望を傾聴しながら、介護保険サービスを適切に利用して、自立支援に則したケアプランの作成を行なうことができました。

特別養護老人ホーム

平成 29 年度は、開設 7 年目で開設当初より入居されていた利用者が体調を崩される事等の背景もあり、年間で 60 名近くの入退所がありました。前年度と比較すると入退所数は増加傾向にありますが、退去後の部屋を次の方へスムーズに受け入れることで、年間の稼働率は 93%の稼働となりました。

施設行事等に関しましては、昨年度同様に青陽須磨特別支援学校とまた今年度より区内に新設された西神戸高等特別支援学校と関わる機会を多く持つ事が出来ました。また、地域でのお祭り行事や檜野台小学校福祉体験学習へ参加させて頂く事で、地域の方々の交流が深まった内容となりました。施設内外の研修は 276 件行い、実習生の受け入れは延べ 62 名となっています。ボランティア活動に関しては、年間で延べ 711 名もの皆様に活動をして頂いています。

ケアハウス

平成 29 年度は、本館では年間 95%、華邸では 98%の稼働率となりました。入院者も少なく、年間を通してほぼ満床状態をキープし安定した稼働となっております。入居に関しては、本館、華邸の見学や申し込み状況等の情報交換を行い、速やかに新規入居まで運ぶ事ができました。

短期入所生活介護

平成 29 年度は、年間で 91%の稼働率となりました。居宅事務所への空き情報の提供や、病院からのロングショート受け入れ等で前年度と比べ稼働率が上昇する結果となりました。また、特別養護老人ホーム入院中の空床利用も継続的に行う事で、地域住民の方々にショートステイの役割を果たす事ができました。

通所介護

平成 29 年度は、年間で 85%の稼働率となりました。地域の居宅介護支援センターや地域包括支援センターとの連携を図る事で稼働率の向上に繋がりました。又、2月に近隣のなでしこデイサービスの閉鎖もあり、新規利用者を多く獲得する事ができました。

訪問介護

平成 29 年度は、年間を通じて急な入院等の理由により要介護者の利用率の低下が見られました。要支援利用者数に於きましては増加傾向にあり、安定した利用率となっています。

居宅介護支援

平成 29 年度前半は、前年通り新規依頼が同区内あんしんすこやかセンターより毎月ありましたが、後半になると、あんしんすこやかセンターの方針変更に伴い、新規依頼件数が減少傾向となっております。それによりケアマネ持ち件数が若干の減少に繋がっています。ただ、これまでの良い関係性は維持出来ており、困難ケースの対応は迅速、且つ的確に行えており、居宅介護支援としての一番の目標である地域高齢者のより良い支援を目指した運営ができています。